

第1節

君はお釈迦さまを知っているか？

① 生まれたとたんに7歩もあるいた!?

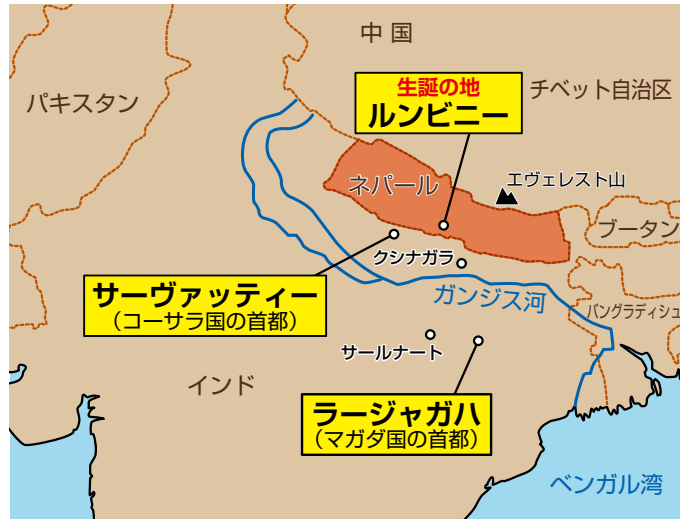
今から約二千五百年前、インドの北方（現在のネパール）に、釈迦族と呼ばれる種族が、カピラ城を中心に小さな国をつくっていました。国王はスッドーナ王（浄飯王、妃はマヤー（摩耶）夫人といいました。マヤー夫人は出産のために、自分の生まれた国へ



スッドーナ王



マヤー夫人



里帰りする途中、①ルンビニーの花
園で休憩されました。そして、マ
ヤー夫人がアショーク（無憂樹）の
枝に手を伸ばされた時、すばらしい
王子が誕生されたと伝えられていま
す。時は、四月八日のことであつた
といわれています。この王子はシッ
ダッタと名づけられました。
シッダッタ太子は、後にさとりを
開いて仏陀（ブツダ）となられたの
で、「釈尊（釈迦族出身の尊い方）」
とか「お釈迦さま」と呼ばれるよう

になりました。

② 仏伝によると、お釈迦さまは生まれるとすぐに七歩あるいて、右手で天を、左手で地を指さし、「天上天下 唯我独尊（天にも地にも ただ我ひとり尊し）」と、高らかに叫ばれました。その時、天は感動して③ 甘露の雨を降らせたといいいます。



「七歩あるいた」ということは、迷いの世界である六道を超えたということを表します。生まれてすぐに迷いを超えてさとりを開かれたわけではありませんが、後にさとりを開いて仏陀に成られたということ、誕生の所に引き寄せて表しているのです。

また、「天上天下 唯我独尊」という言葉は、決して「他人と比べて、この世の中で自分が一番尊い」という傲慢な意味ではなく、「私のいのちは、天にも地にも、この世の中にとった一つしかない、かけがえない尊いものちである」という意味であり、すべてのいのちの尊さを教えてくれる大切な教えの一つなのです。